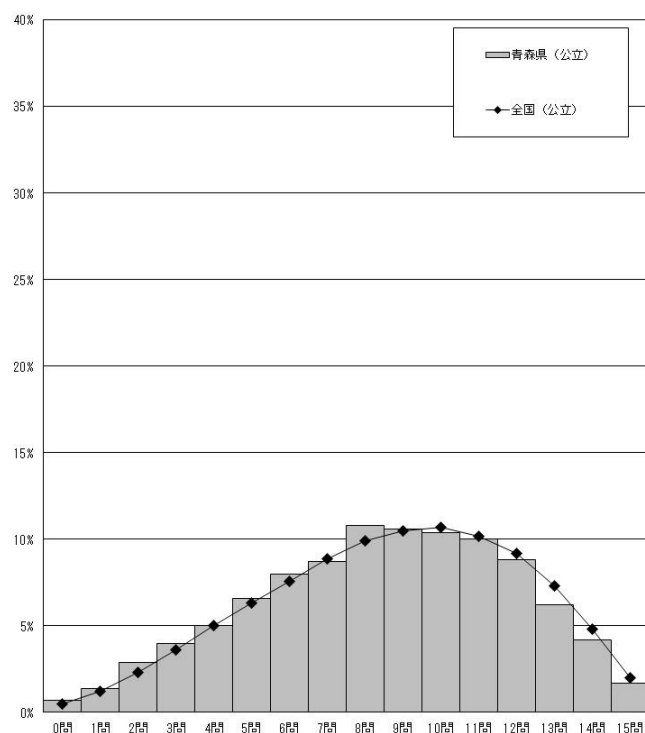


Ⅲ 中学校

Ⅰ 正答率

①国語

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県(%)	全国(%)
15問	1.7	2.0
14問	4.2	4.8
13問	6.2	7.3
12問	8.8	9.2
11問	10.0	10.2
10問	10.4	10.7
9問	10.6	10.5
8問	10.8	9.9
7問	8.7	8.9
6問	8.0	7.6
5問	6.6	6.3
4問	5.0	5.0
3問	4.0	3.6
2問	2.9	2.3
1問	1.4	1.2
0問	0.7	0.5

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	11.0問	11.0問
第2四分位	9.0問	9.0問
第1四分位	6.0問	6.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

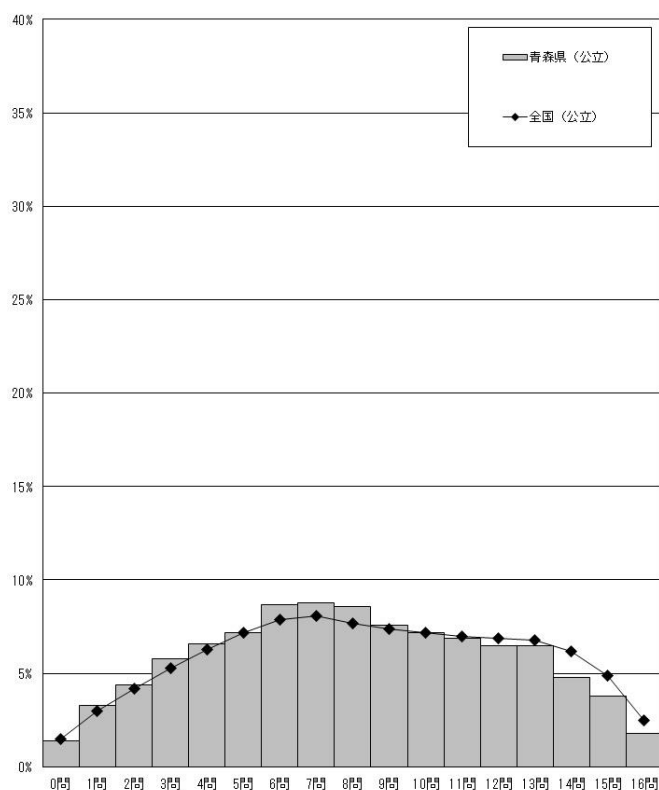
- ・正答数の分布の傾向としては全国と類似している。
- ・正答数10～15問の割合が全国と比べると少ない。
- ・正答数0～6問の割合が全国と比べると多い。

□四分位表

- ・第1四分位、第2四分位、第3四分位とも、全国と同様の正答数である。

②数学

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県(%)	全国(%)
16問	1.8	2.5
15問	3.8	4.9
14問	4.8	6.2
13問	6.5	6.8
12問	6.5	6.9
11問	6.9	7.0
10問	7.2	7.2
9問	7.6	7.4
8問	8.6	7.7
7問	8.8	8.1
6問	8.7	7.9
5問	7.2	7.2
4問	6.6	6.3
3問	5.8	5.3
2問	4.4	4.2
1問	3.3	3.0
0問	1.4	1.5

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	11.0問	12.0問
第2四分位	8.0問	8.0問
第1四分位	5.0問	5.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

- ・分布全体の様子から全国と本県の正答数の傾向は同様である。
- ・正答数が13問から16問の生徒の割合は、本県が16.9%、全国が20.4%で全国よりも低い。
- ・正答数が6問から8問の生徒の割合は、本県が26.1%、全国が23.7%で、全国よりも高い。
- ・正答数が5問以下の生徒の割合は、本県が28.7%、全国が27.5%と全国よりも若干高い。

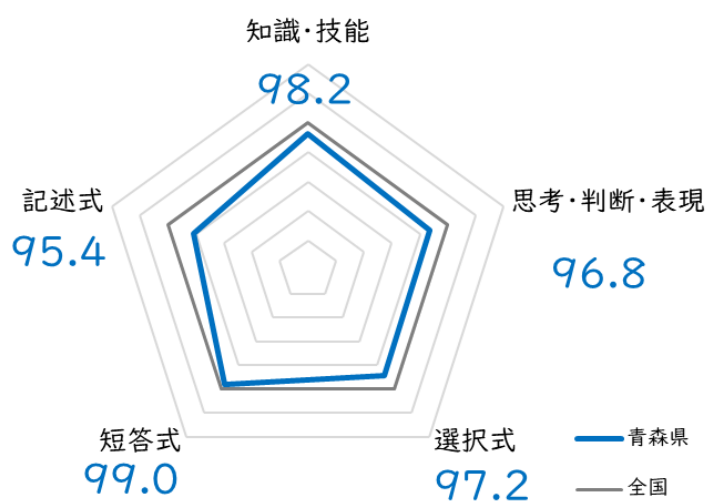
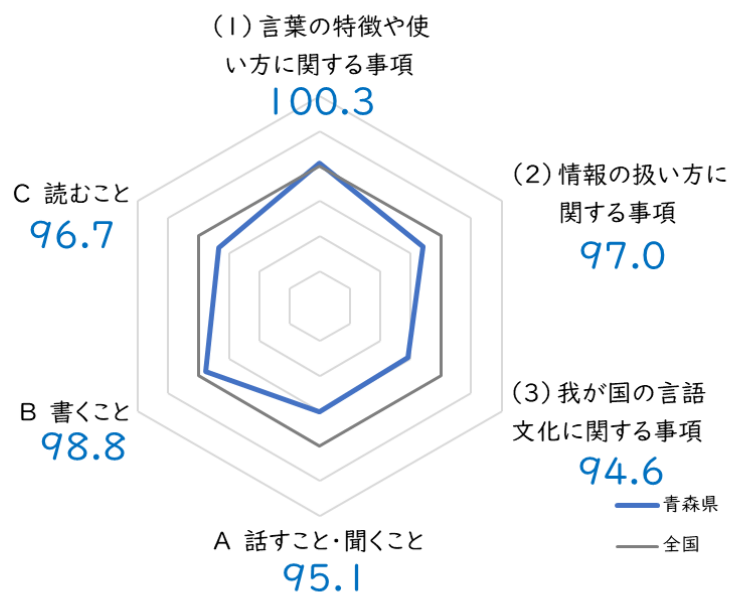
□四分位表

- ・本県と全国の中央値はともに8.0問であり、差は見られない。

2 領域別の正答率

①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

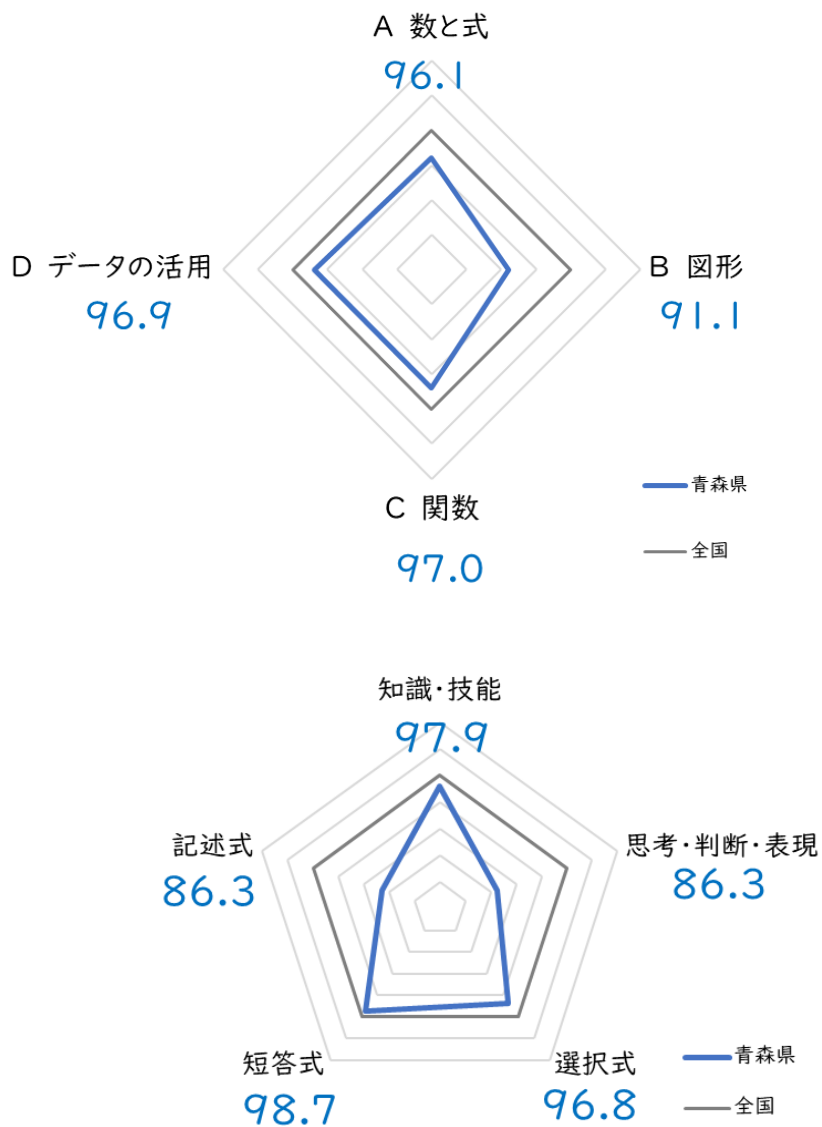
(ア) 国語



※全国を100とした時の本県の割合
以下同様

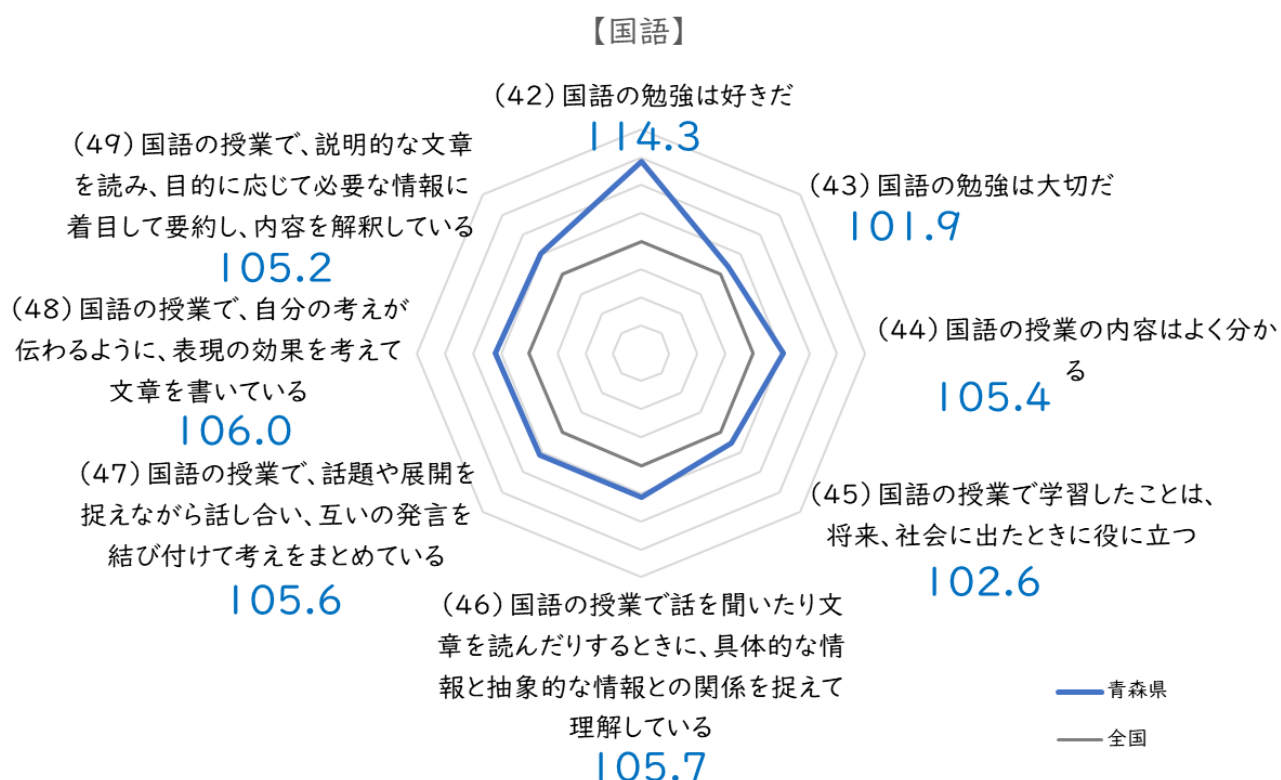
- ・学習指導要領の内容では、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国を上回り「(2) 情報の扱い方に関する事項」、「(3) 我が国の言語文化に関する事項」、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」において、全国を下回っている。
- ・評価の観点、問題形式においては、全ての項目で全国を下回っている。

(イ) 数学



- ・学習指導要領の領域においては、全ての項目で全国を下回っている。
- ・評価の観点、問題形式においては、全ての項目で全国を下回っている。特に「思考・判断・表現」「記述式」では大きく下回っている。

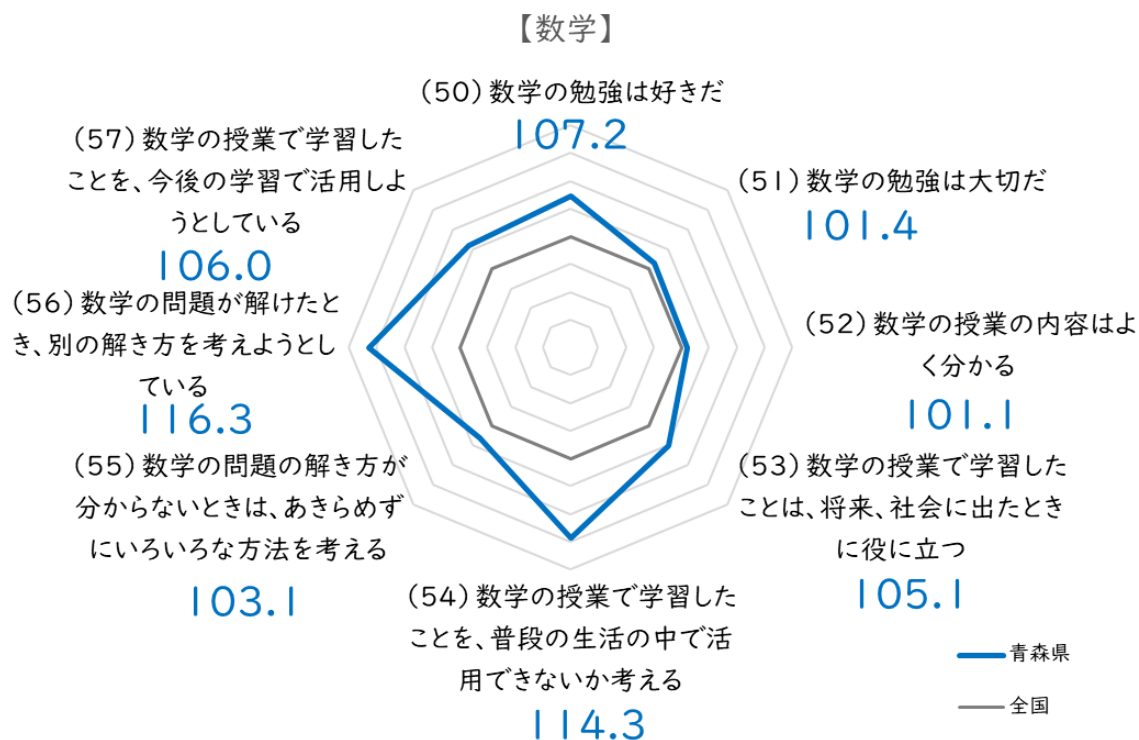
3 生徒質問紙調査



【国語】

・すべての項目において全国平均を上回っており、本県の生徒の国語学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況である。

- この結果から、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善、特に記録、要約、説明、論述、話し合い等の「言語活動」を重視した授業が行われていると、生徒は受け止めている。
- ただ活動するだけにならないよう、学習過程を一層明確にし、指導事項を位置付けることで、言語活動を通じてどのような資質・能力を育成するかを示すことが求められる。
- 生徒一人一人が、どのような資質・能力を働かせるか意識して学習を進められるよう、更なる授業改善に取り組むことが重要である。



【数学】

・すべての項目において全国平均を上回っており、本県の生徒の数学学習に対する興味・関心の高さ等は概ね良好な状況である。

- (54)「普段の生活の中で活用できないか考える」(56)「別の解き方を考えようとしている」の項目が全国を大きく上回っており、授業改善が進んでいると考えられる。
- 平均正答率等と比べると、既習内容をつなげて考え、日常生活に範囲を広げて今後の学習に活用する授業づくりに更に取り組むことが求められる。
- 生徒が課題解決において、柔軟な思考や多様なアプローチを試みる授業展開が今後ますます求められると考えられるため、更なる授業改善に取り組むことが重要である。

4 学校質問紙調査

【国語】

(41) 話を聞いたり文章を読んだり
するときに、具体的な情報と抽象的
な情報との関係を捉えて理解する
ことができるような指導を行った

96.9

(44) 説明的な文章を読み、目的
に応じて必要な情報に着目して要
約し、内容を解釈することができる
ような指導を行った

96.9

(42) 話題や展開を捉えながら話
し合い、互いの発言を結び付けて
考えをまとめることができるような
指導を行った

91.9

(43) 自分の考えが伝わるように、
表現の効果を考えて文章を書く指
導を行った

97.2

— 青森県
— 全国

【数学】

(45) 実生活における事象との関
連を図った授業を行った

98.2

(48) 生徒がどのようなことにつま
ずくのかを想定した指導を行った

99.7

(46) 観察や操作、実験等の活動
を通して、数量や図形等の性質を
見いだす活動を行った

97.3

(47) 問題の答えを求めさせるだ
けではなく、どのように考え、その
答えになったのかなどについて、生
徒に筋道を立てて説明させるよう
な授業を行った

98.3

— 青森県
— 全国

【国語】

○すべての項目において全国平均を下回っていることから、学校は国語科の授業改善が十分ではないと捉えていることがうかがえる。生徒質問紙調査による生徒の受け止めと差があることから、今後は授業者の育てたい資質・能力を明確にして生徒にも示し、生徒が自らの学習を調整できるよう、より一層の指導の充実が望まれる。

【数学】

・すべての項目において全国を下回った。

○調査結果から、事象を数学的に解釈し、数学的に説明することや数学的な表現を用いて説明することに課題がみられた。このことから、数学的な知識の理解の質を高め、思考力、判断力、表現力を身に付けさせる授業を促進させ、一人一人の生徒に応じた指導や支援を充実させる必要がある。

5 指導改善のポイント

①国語

問題番号 [1三] [知識及び技能]

情報の扱い方に関する事項

◆情報と情報の関係について、意見と根拠の関係を理解することに課題がある。

発言の中で、おすすめの本のコーナーを利用することについて、今井さんが「自分とは異なる価値観に触れることもできますね」という意見を述べていることを捉えることができなかったものと考えられる。

◇意見と根拠など情報と情報との関係を理解し、話や文章の中で捉える。

相手の考えを理解したり自分の思いや考えを表現したりするためには、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報との関係について理解することが重要である。その際、意見とそれを支える根拠がどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることができるように指導することが大切である。以下の各学年の活動との関連を図ることが効果的である。

〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」(2)ア「話したり聞いたりする活動」、「B書くこと」(2)ア「説明的な文章を書く活動」、「C読むこと」(2)ア「文章を読み理解したことや考えたことをまとめる活動」など

問題番号 [2四] [思考力、判断力、表現力等]

読むこと

◆目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。

選んだ〈着目する内容〉について、目的に応じて必要な情報を不足なく取り上げて書くことができていないことから、選んだ〈着目する内容〉と自分が書いた要約とを照らし合わせて、必要な情報を十分にに取り上げているかを確認することができていないものと考えられる。

◇目的に応じて必要な情報に着目して要約する。

要約するとは、文章の全体又は部分を短くまとめることである。概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる。そのため、要約する際には、目的を明確にすることが大切である。その上で、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約することが重要である。

指導のポイント

○原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係について理解する。

[2四]と[2二]、[2三]のクロス集計の結果から、「文章の中の情報と情報との関係が具体と抽象の関係であることを捉えることができていない([2二])」、「文章の中で示されている主張と例示との関係を捉えることができていない([2三])」生徒の方が、目的に応じて必要な情報に着目して要約すること([2四])ができることが分かる。

このことから、情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり整理したりすることが、必要な情報を正確に捉えることにつながる。

[2四]と[2二]とのクロス集計の結果

[2四]	[2二]		
	全体	正答	誤答または無解答
正答	100.0	86.1	13.9
誤答または無解答	100.0	67.4	32.6

※表の数値は、小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が一致しない場合がある。

[2四]と[2三]とのクロス集計の結果

[2四]	[2三]		
	全体	正答	誤答または無解答
正答	100.0	79.6	20.4
誤答または無解答	100.0	53.6	46.4

※表の数値は、小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が一致しない場合がある。

②数学

(1) 各領域において大切なこと

A 数と式

◇ 事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明できるようにする

事柄が一般的に成り立つ理由について、見通しを持ち、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導すること。

◇ 問題解決の過程や結果を振り返り、統合的・発展的に考察できるようにする

数学の事象から問題を見出し、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察できるようにすること。

B 図形

◇ 筋道を立てて考え、証明する活動の充実

ある事柄を証明するために、証明の方針を立て、それに基づいて証明できるようにすることが重要である。根拠となる事柄を明らかにしながら、数学的な表現を用いて説明できるように指導すること。

◇ 問題解決の過程や結果を基に統合的・発展的に考察できるようにする

図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、成り立つと予想される事柄を見出し、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現できるようにするとともに、条件を変えても成り立つ事柄を見出すなど、統合的・発展的に考察できるように指導すること。

C 関数

◇ 問題解決のために数学を活用する場面を考え、数学的な表現を用いて説明できるようにする

数学を用いて問題解決できるように、解決の構想を立てたり、解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることはもちろんのこと、その際、何を明らかにするかという目的意識をもち、事象をどのように捉えたのかを明確に説明できるように指導すること。

D データの活用

◇ データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする

データに基づいて問題を解決する過程において、データの分布に着目しているか、分析した結果から得られる結果が妥当かなどについて検討することと、データから四分位数を求め、読み取るだけでなく、箱ひげ図の箱の位置などに関連付けてデータの分布の傾向について考察する場面を設定すること。

(2) 数学の総括及び今後の対策

数と式の領域では数量の関係を式で表現する力、図形の領域では証明活動の充実、関数やデータの活用では、事象の捉え方やデータの分析能力が課題としてあげられる。このことから、数学の学習では、数学の問題発見・解決の学習過程を意識しつつ、特に、学んだことを活用して日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決する学習や学びを振り返り、数学の事象について統合的・発展的に考え、問題を解決する学習の機会を意図的に設定することが重要である。